

5) 調査研究結果の独創性, 新規性

シカ防護ネットの設置による林床植生と節足動物の経年的な変化を2年間追跡することができた。全国的にも、このような多様な分類群への影響を評価した事例は多くない。また、ネット設置前に優占していたシカ不嗜好植物が、設置後の植分にも影響を及ぼしていることが明らかとなった点も、新規性の高い結果といえる。

6) 成果の活用状況 (技術移転・活用の可能性)

平成28年度より実施される福岡県重点施策事業「英彦山及び犬ヶ岳生態系回復事業」の事業計画に本研究成果を反映させる。また、本事業の一環として、英彦山ブナ林域を事業区域とする「生態系維持回復事業」(自然公園法に基づく公園計画)の実施が平成29年度より予定されている。事業内容として、動植物や生態系等の調査及びモニタリングの必要性が明記されており、本研究成果は生態系維持回復事業の計画策定にも活用される。

なお、英彦山ブナ林域における生態系維持回復事業の展開にあたり、より具体的かつ効果的なブナ林の保全・復元方策が求められていることから、本研究成果を踏まえた新規研究課題「英彦山ブナ林生態系の保全・復元に関する研究」を平成28年度～30年度の3年間の予定で実施する。

